

科目 I 人間関係とコミュニケーション 傾聴

1. 人間関係とコミュニケーション

人間は、本質的に他との「関係による」存在であるとともに「関係にある」存在である。この関係は自己創造的なものではなく、人間関係の存在は「関係」にある。十分なコミュニケーションは健全な人間関係を促進する。不十分なコミュニケーションは人間関係を低下させる。健全な統合されている人間関係が目標である。コミュニケーションはこのような人間関係を築く手段であり、目標ではない。

ねらいは

- ・人間存在に基本的な、すなわち哲学的・信仰／宗教的（神学的）＝スピリチュアルな、基盤の理解を深める
- ・自分自身・他者・自然・超自然存在との関係は、人間存在の不可欠な基礎と条件であることへの理解
- ・コミュニケーションは人間関係が成り立つ手段であることへの理解
- ・基本的なコミュニケーション SKILLS の紹介および適切なトレーニング

2. 傾聴の哲学的、神学的および心理学的な側面

人間は、基本的に「受け取る存在」として考えられる。人間の存在そのものと生命は人間自身が取得できるものではなく、他力（親、自然、超自然、神）によるもの、つまり与えられたものである。傾聴即ち耳を傾ける方向は自己以外のものであり、聴かれたことも他者／自己以外のものによるのである。人間のアイデンティティ（名前を含む）は他者に呼ばれたこと＝「VOCATION 使命」の結果である。

傾聴は、人間関係および人間のコミュニケーション（意思の伝達）における要の石である。正確で十分な傾聴は健全で統合された人間関係を育成させるが、不十分な傾聴はコミュニケーションを低下させ、病的な人間関係を作り上げる。

ねらいは

- ・人間の状態とその神秘を（再）認識や（再）確認すること。
- ・傾聴は人間存在の哲学的・宗教的／神学的（宗教的）な基礎であることへの理解。
- ・傾聴の物質的基礎である「耳」の理解および心理学的な技法、特に正確な応答法を取得すること。

概要

1. 人間の本質、即ち「関係における存在」
2. 4つの関係：自分自身、他者、自然および超自然との関係

3. 人間は「聴き取る存在」つまり「受け取る被造物」
4. 聴く態度を構成する要素：「今」「ここ」「自分」「eye contact」「反復」
5. パーソナリティの理論と自己防衛機構
6. 傾聴における5つの次元
7. 「聞く」ことと「聴く」こと
8. 傾聴による3つの人間のタイプ
9. 「名前」
10. Tomatis 理論、「Effect Tomatis トマティス効果」
11. Eye contact
12. Feeling
13. 「応答」と「反復」